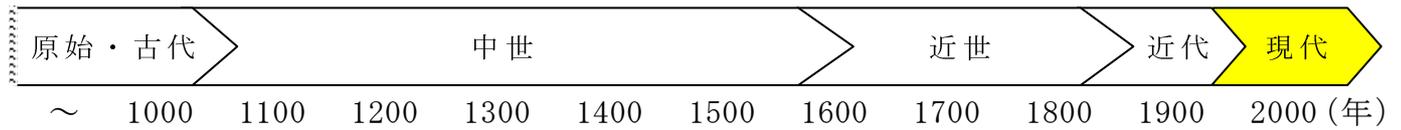


# 7 高度経済成長とひろしま いけだはやと ～池田勇人～



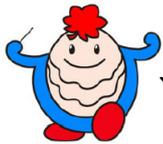
## 1 池田勇人とはどのような人物でしょうか？

池田勇人（1899～1965）は広島県豊田郡吉名村（現在の竹原市吉名町）出身の政治家です。大蔵大臣や通産大臣などの重要な職を務めた後、1960（昭和35）年に内閣総理大臣となりました。広島県出身では加藤友三郎に次ぐ二人目の内閣総理大臣です（現在の憲法下では初）。



池田勇人

池田は、「所得倍増計画」という政策を掲げ、日本の高度経済成長を成し遂げ、戦後の日本における経済成長の基礎を築いた人物です。そして、この経済成長は、日本の国際的地位を向上させることにもなりました。



池田勇人は、どのようにして戦後日本の経済成長の基礎を築き、国際的地位を向上させたのでしょうか？

## 2 池田勇人は、どのようにして戦後日本の経済成長の基礎を築いていったのでしょうか？

池田は、1949（昭和24）年1月の衆議院議員選挙に初当選しました。同年2月に成立した第3次吉田茂内閣では、一年生議員でありながら大蔵大臣に抜擢され、戦後の重要な経済政策を推し進めました。

1951（昭和26）年9月8日、サンフランシスコで開かれた対日講和会議には吉田茂首席全権委員に同行するなど吉田首相の信任が厚く、1954（昭和29）年に吉田政権が退陣するまで大蔵大臣、通商産業大臣等

年	おもなできごと
1899(明治32)	豊田郡吉名村（現竹原市）に生まれる
1925(大正14)	京都大学卒業後、大蔵省（現財務省）に入省する
1947(昭和22)	第1次吉田内閣で大蔵事務次官に抜擢される
1949(昭和24)	衆議院議員選挙で初当選。第3次吉田内閣で大蔵大臣に就任する
1950(昭和25)	通商産業大臣を兼任する
1951(昭和26)	全権委員のひとりとして、サンフランシスコ平和条約に署名する
1956(昭和31)	石橋湛山内閣で大蔵大臣に就任する
1957(昭和32)	岸信介内閣で大蔵大臣に就任する
1958(昭和33)	第2次岸信介内閣で国務大臣に就任する
1959(昭和34)	岸信介改造内閣で通商産業大臣に就任する
1960(昭和35)	自由民主党総裁選挙で当選。第58代内閣総理大臣に指名される 「国民所得倍増計画」を閣議決定する
1962(昭和37)	アメリカのケネディ大統領と会談する
1964(昭和39)	東京オリンピック終了翌日に退陣表明する
1965(昭和40)	8月13日に永眠（享年65歳）

池田勇人の年表

の要職を歴任しました。そして、1960（昭和35）年に内閣総理大臣となりました。

日本経済は戦争によって混乱していましたが、GHQ<sup>(1)</sup>による占領期間中の様々な改革や朝鮮戦争などによって、1950年代半ばまでに経済は戦前の水準に回復しました。その後、1955（昭和30）年から1973（昭和48）年までの間、日本は年平均で10%前後の経済成長を続けるのです（高度経済成長期）。その成長を支えたのが、池田の「所得倍増計画」でした。



サンフランシスコ平和条約調印の様子  
(右から二人目が池田)



池田勇人筆「経国済民」

※大蔵大臣（現財務大臣）時代の書で、「経世済民」に同じ。「経済」の語源となった言葉。

### 3 「所得倍増計画」はどのような計画でしょうか？

内閣総理大臣となった池田は、経済発展を中心政策にした政治を推し進めました。内閣総理大臣になる前の1959（昭和34）年の参議院議員選挙で池田は各地で次のような演説を行っていました。

「お仕事中のみなさん、私の話をちょっと聞いてください。みなさんの月給が2倍になるという話をいたします。」

池田は、国民所得倍増を達成するため、次のような政策等を行いました。

#### ○1000億円以上の減税

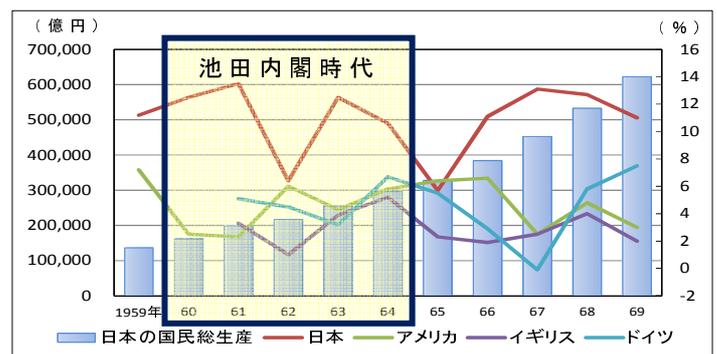
- ・法人税・所得税の減税により労働者の収入が増加。購買力（ものを買う力）が向上する。そのためものが売れ、企業の増産により景気が上向く。

#### ○中小企業の近代化

- ・技術や設備の改善とそのため資金を助成し、技術指導を行うことにより、増産を図る。

また、日本製品を海外に多く輸出できるように努力しました。国内産業においても、1960年代半ばにはカラーテレビ、クーラー、自動車のいわゆる「3C」が普及し、「新・三種の神器」と呼ばれて豊かさや憧れの象徴となりました。こういった新製品の供給が国民の需要を呼び起こしました。

国民所得倍増計画を中心とする池田の経済政策は、“世界の奇跡”と呼ばれ、当時、経済力に不安のある国として見られていた日本が、

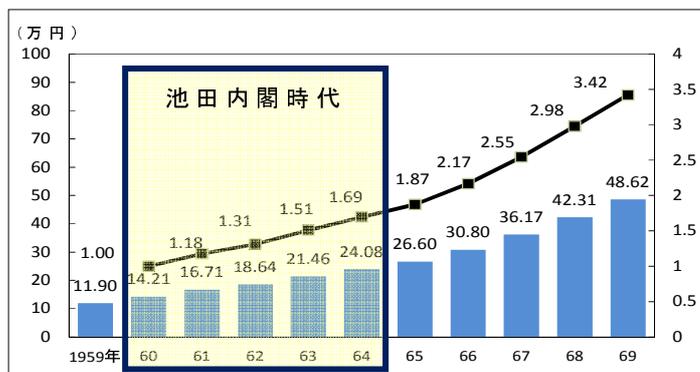


日本の国民総生産と各国の実質経済成長率の推移  
(『池田政権・1575日』)

経済でアメリカやヨーロッパに認められるようになりました。

1964（昭和39）年にアジアで最初に開催された東京オリンピックは、池田の政策の追い風になりました。このオリンピック開催に向け、大規模なインフラ<sup>(2)</sup>整備が活発に行われます。東海道新幹線の東京－新大阪間が開業したのは、池田内閣の時です。

こうして、「10年で国民総生産<sup>(3)</sup>と国民所得を倍増させる」とした池田内閣の時代に、国民総生産は倍増し、国民所得も内閣発足から6年後の1966（昭和41）年には2倍を超えるのです。



一人当たりの国民所得の推移  
(折れ線グラフは1960年を「1」とした値)  
(『池田政権・1575日』)

#### 4 池田は、どのように日本の国際的地位を向上させたのでしょうか？

池田による外交の特徴は、最初の施政方針演説における「外交と内政は本来一体不離」という言葉に集約できます。所得倍増計画における経済政策において、日本が国際社会に認められるためには、貿易の自由化が課題であり、それを実行することで先進国として認められることを目指すものでした。1961（昭和36）年6月、池田はアメリカ合衆国大統領ケネディと日米首脳会談をワシントンで行い、アメリカが日本のOECD<sup>(4)</sup>への加盟に力を尽くすといった言葉を引き出し、また、日米両国が自由な貿易政策をとるべきこと等の共同声明を発表しました。



池田とケネディ大統領の会談

1963（昭和38）年4月、日本はIMF（国際通貨基金）において先進国と同じ扱いとすることが認められ、OECDに正式加盟を果たしました。池田の経済政策、外交政策によって、日本は国際的な地位を得て、先進国の一員になりました。

(※写真はすべてたけはら美術館提供)



池田勇人が、どのようにして戦後日本の経済成長の基礎を築き、国際的地位を向上させたのか、調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！

#### 【注】

- (1) 連合軍最高司令官総司令部のこと。戦後の日本における占領政策を実施した連合軍の機関。
- (2) 生活や産業の基盤となる公共施設等。道路・鉄道，上下水道，学校，公園など。
- (3) 一定期間に国民によって生産された財（商品）やサービスの総計。現在は国内総生産という概念が用いられるようになっている。
- (4) 経済協力開発機構。先進国間の自由な意見交換・情報交換を通じて，経済成長，貿易自由化及び発展途上国支援に貢献することを目的としている。

## 【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

○高度経済成長期の広島の様子を調べてみよう！

- ・1964（昭和39）年の工業整備特別地域整備促進法により、備後地域が指定された工業整備特別地域とはどのようなものでしょうか。
- ・高度経済成長の頃、人々の暮らしはどのように変化したのでしょうか。
- ・東京オリンピックや大阪万国博覧会が開催された時、人々はどのような思いだったのでしょうか。

○身近な地域の高度経済成長の様子を調べてみよう！

- ・地域の道路網はどのように整備されていったのでしょうか。
- ・瀬戸内沿岸の工業の発展はどのように進んだのでしょうか。

### ◇たけはら美術館

住所：竹原市中央五丁目 6-28 TEL：0846-22-3558 HP

※故池田勇人氏が生前愛蔵した「池田コレクション」をはじめ、郷土ゆかりの作品を収蔵しています。

## 【もっと知りたい！郷土の歴史】

### みやざわ きいち 宮澤喜一

右の写真の前列右端で万歳ばんざいをしている人が誰か分かりますか。後に第78代内閣総理大臣となった宮澤喜一（1919～2007）です。池田勇人が大蔵大臣を務めていたとき、宮澤はその秘書官を務めていました。

宮澤は、1953（昭和28）年の第3回参議院議員通常選挙に広島選挙区から出馬し当選しました。そして、1963（昭和38）年、第3次池田内閣の時、経済企画庁（現内閣府）長官に任命されています。

宮澤は、サンフランシスコ平和条約やアメリカでの池田とケネディ大統領との会談の際に随行ずいこうしています。彼の英語力は政界随一ずいいちとも言われ、海外留学や英語の専門教育を受けた経験はありませんでしたが、独学で英語を勉強した努力家であることが知られています。

1991（平成3）年、72歳で内閣総理大臣に就任し、国際派の総理大臣として期待されました。宮澤は、「社会的蓄積ちくせきや美観など質の面でも真に先進国と誇れるような、活力と潤いに満ちた、ずっしりと手応えのある『生活大国』づくりを進めていきたい」と述べ、「生活大国」の建設を大きな政策目標に掲げ取り組みました。政治の師匠ししょうである池田元首相が敷いた経済成長の路線から、国民生活の充実を重視する方向を目指したのです。

1993（平成5）年、内閣総理大臣を辞任後じにんも、1998（平成10）年の小渕内閣の時に大蔵大臣に就任します。内閣総理大臣経験者が再び大蔵大臣に就任することは異例で、経済政策に優れた戦前の政治家高橋是清たかはしこれきよになぞらえて、「平成の高橋是清」とも呼ばれました。広島県名誉県民及び福山市名誉市民として顕彰けんしょうされています。



宮澤喜一と池田勇人  
（たけはら美術館提供）